

マタイによる福音書24章1-35節 「神の民に与えられた裁き」

1A 実を結ばない神殿 1-2

2A 終わりの日の徴 3-31

1B 産みの苦しみ 3-8

2B 迫害と宣教 9-14

3B 荒らす忌まわしい者 15-22

4B 再臨前の惑わし 23-28

5B 天変地異 29-31

3A 御言葉の確かさ 32-35

本文

マタイによる福音書 24 章を開いてください。聖書預言セミナーにおいて、今、世界や中東で起きていることをお話ししていくべきか、それとも、もっと基本的な終末預言についての聖書の教えを学んでいくか、どちらにしようか迷いました。今週、まさに聖書預言に関する大きな出来事が中東で起こりました。サウジアラビアの石油施設にイランからの巡航ミサイルで攻撃が行われたことです。その前にイスラエルは、レバノン、シリアだけでなく、イラクにあるイランの軍事基地をドローン攻撃していました。そして、ロシアとイランとトルコの首脳がシリア内戦の調停のために、三者会議を行いました。エゼキエル 38 章の預言がますます近づいています。こういった細かいことを話すべきかどうか迷いました。けれども、それよりも、「イエス様がどのような視点で世の終わりを見て行けばよいのか」を見て行こうと思います。イエス様がまさに、「惑わされないでいなさい」と言われ、「目を覚ましていなさい」とも言われました。日頃入ってくるニュースをどう見分けていくのか？そのことと、自分たちの信仰生活はどう関わりがあるのか？イエス様が見ておられるように世界を見ていくことを身に着けていきたいと思います。

1A 実を結ばない神殿 1-2

1 イエスが宮を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに向かって宮の建物を指し示した。2 すると、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはこれらの物すべてを見ているのですか。まことに、あなたがたに言います。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」

イエス様が、十字架に付けられるためにエルサレムに入城されて数日後のことです。イエス様は、宮の境内にて、ユダヤ人の宗教指導者と議論しておられました。初めに宮に入られた時に、両替台をひっくり返し、牛や羊に付けられていた紐を解かれたからです。宮は祈りの家でなければいけないのに、強盗の巣にしている！と非難されたのです。そこで、祭司長たちがやって来て、何の権

威があってそのようなことをしているのか？と問い詰めると、「あなたがたが、バプテスマのヨハネがどこから来たのか答えれば、答える。」と言われたけれども、彼らは答えることができませんでした。それで、イエス様は、彼らがいかに実を結んでいないのかを指摘されました。イスラエルは、神の選びの民です。そして彼らは、民が神に対して実を結ぶように指導すべきなのに、むしろそれを妨げていました。イエス様は、道の途中で実を結んでおらず、けれども葉が茂っているいちじくの木を見て、それを呪われました。すると、それが根こそぎ枯れてしまいました。それは、宗教的な活動は盛んであったのに、実質的な実を結んでいなかったイスラエルの姿を表していました。

そしてイエス様は、パリサイ人と律法学者を、八度も「災いである」と宣告されました。マタイの 23 章です、そして、これまで正しい人の血を流したのは、あなたがたの先祖たちで、そして「23:36 これらの報いはすべて、この時代の上に降りかかる。」と言われました。福音書でイエス様が「この時代」と言われるのは、特別な言葉です。メシア、キリストが来られた時のイスラエルの民の世代と言い換えることができるでしょう。神が約束されておられた、イスラエルを救われる方が来られた時の世代であります。かつて、イスラエルの民がエジプトから出て、荒野で 40 年間、さまよいました。その時も、特別な世代でした。神がイスラエルを救い、約束の地に導かれるところの世代でした。ところが彼らが不信の罪に陥り、その大人の世代は荒野で死に絶えて、約束の地に入れなかったのです。

「この時代」とは、ここではイエス様が来られた時の世代であり、主は紀元 30 年頃に公生涯を始められましたが、その 40 年後、紀元 70 年に、エルサレムにある神殿が、ローマによって破壊されました。キリストが来られたのに、イスラエルを救う方が来られたのに、拒んでしまったために裁かれたのです。イエス様は 23 章の最後で、エルサレムが破壊されることを悲しみをもって預言されました。事実、70 年にそれが現実のものとなり、それゆえに今でも、エルサレムに行けば、破壊された神殿の敷地を支える壁の一部が、「嘆きの壁」として残り、そこで神殿の再建を願って、ユダヤ人たちが祈っています。

しかし、23 章の最後でイエス様が語られた言葉です。「23:39 わたしはおまえたちに言う。今から後、『祝福あれ、主の御名によって来られる方に』とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。」イエス様がろばの子に乗ってエルサレムに入られる時に、詩篇 118 篇にあるメシアを迎え入れる言葉を、民衆が叫んでいましたね。ユダヤ人たちが再び、イエス様を見る時に同じ言葉を叫ぶということです。

そこで、今読みました、1-2 節に戻ります。イエス様は、神殿の破壊を予告されました。しかし 31 節には、天の果てに散らされた選びの民が、主が戻って来られる時に集めてくださるとあるのです。私たちは今、ユダヤ人が、その神殿が破壊されて世界に離散の民となって、けれども、イエスをメシアであると受け入れる残りの民が集められる出来事の間に生きています。そのことをイ

エス様はこれから語られるのです。

ちなみに、イエス様が言われたここでの預言は文字通り成就しました。ヘロデが建てたこの神殿は、世界の七不思議に入ってもおかしくないと言われていたほどのものです。ソロモンの建てた神殿は、紀元前 586 年に彼らが神に背いていたために、バビロンによって滅ぼされました。七十年後の戻って来て、神殿を再建しました。そしてヘロデは第二の神殿を大改築しました。紀元前 20 年から始めていたのですが、ヨハネ 2 書 20 節によりますと、それから 46 年経っているのに、まだ完成していない様子がかえります。紀元後 64 年に完成したと言われるものです。大理石によって造られて、それはさぞかし荘厳な建物でした。

ところが、ローマがエルサレムを包囲した時に、総督ティスは神殿を破壊してはならないと命じていましたが、ローマ兵の中で火遊びをしていたのが引火し、火事になりました。それで、石に使われていた黄金はみな溶けてしまいました、石の裂け目に入った金も中から取り出すために、石を一つ一つ崩していったのです。今も、エルサレムに行けば、発掘されたところから、黒焦げになっている石の跡を見ることができます。イエス様の言われたことはその通りになりました。

2A 終わりの日の徴 3-31

1B 産みの苦しみ 3-8

3 イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」

弟子たちは、神殿が破壊されることを聞いた時に、それは主が来られて、世が終わる時を示していると思いました。ダニエル書には、「9:26 次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。」とあります。またゼカリヤ 14 章には、世界中の軍隊がエルサレムを攻め、都が取られてしまうことが預言されています(1-3 節)。そして主が戻って来られて、オリーブ山の上に立つことも預言されています。今、オリーブ山にいます。そして神殿を眺めています。そこでイエス様が神殿の破壊されることを語られたので、世の終わりが来ることを意味すると思ったのです。そこで、イエス様はご自分が戻られる時まで起こることを語り始められます。

4 そこでイエスは彼らに答えられた。「人に惑わされないように気をつけなさい。5 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。6 また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりましたが、気をつけて、うろたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。8 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。

イエス様が私たちに注意しておられることが、一つあります、「惑わされないようにしなさい」ということです。自称イエスが表れて、それから戦争や戦争の噂を聞く時に、それが終わりなのではないということです。けれども、ここで「産みの苦しみの始まり」としている徴を挙げておられます。産みの苦しみとは陣痛のことです。「民族は民族に、国は国に敵対して」の言い回しは、「あちこちで」という意味で、全面戦争の意味です。世界的な全面戦争というものが、近代にはいつ起こりました。いわゆる「世界大戦」と呼ばれるものです。私たちはその時に、産みの苦しみの始まりであることを知ります。第二次世界大戦が 1945 年に終結しましたが、その新しい秩序が今や再び壊れそうとなっています。民族主義が異様に強くなっています。それぞれの国が独裁的になっています。そしてぶつかり合っていて、第三次世界大戦がいつ起こってもおかしくないと言われています。

そして、「飢饉」ですが、天災よりも人災の側面が多いです。イエメンでは内戦が起っています。骨と皮だけになった子が写真や動画で出て来ます。「地震」は、私たちは実感を持って体験していますね。歴史に記録されている大規模な地震で、19 世紀までに起こったものを全て合わせても、20 世紀に起こったものはるかに多く、そして今世紀に起っている地震は、20 世紀に起こったものに既に追いつきそうになっています。ここで、世界情勢で国々が不安定になっていることと、自然界が不安定になっていることは、決して偶然ではありません。主は預言者ハガイを通して、お語りになりました。「2:6-7 間もなく、もう一度、わたしは天と地、海と陸を揺り動かす。わたしはすべての国々を揺り動かす。」

ですから、私たちが見て行かなければいけないのは、第一に、「世界的規模の対立、そして飢饉や地震」であります。これは既に起っています。

2B 迫害と宣教 9-14

9 そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。10 そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。11 また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。12 不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えます。13 しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。14 御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

イエス様が世の終わりについて、持っていなさいとされる視点の第二は、「キリスト者に対する迫害」であります。それは、使徒の時代から既に起こっていました。教会史において、ずっと起こってきました。ある神学者は、「殉教者の血は教会の種(the blood of the martyrs is the seed of the Church)」と言いました。迫害があると、それだけ教会は清められ、前進していきました。社会はここに書いてあるように荒廃します。けれども、そのような只中であって、「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます」とあるのです。

世界福音同盟(WEA)という、国際的なキリスト教の団体がありますが、そこが毎年11月初めに、「迫害下にある教会のための国際祈祷日」というものを設けています。¹私たちの教会でも、礼拝の中で祈りの時を持ちました。そこでは「一億人のクリスチャンが世界で迫害に直面している」こと、また「宗教的迫害の80%がクリスチャンに対するもの」という報告がなされています。殉教者は、年ごとに倍増しています。北朝鮮、アジア、そして中東で激しい迫害があります。しかし同時に、これまでにないリバイバルが世界各地で起こっています。しかも、迫害は激しいと言われているところで起こっているのです！マイク・ペンス副大統領も言及しました。中国の教会は、共産党が政権を取った70年前、50万人のキリスト者もいなかったのですが、今日は、1億3千万人になっているのです！²イランも、1979年にイスラム革命が起こってから、キリスト者が急増しました。それまでは500人ぐらいしかいなかったのだそうですが、今は、どんなに少なく見積もっても100万人は下らないそうです。³

ですから、私たちは、困難があっても、主はその困難を用いられて、かえってご自分の御業を進めておられるのだという視点を持っていく必要があります。迫害のあるところには、希望があります。

3B 荒らす忌まわしい者 15-22

15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす忌まわしいもの』が聖なる所に立っているのを見たら——読者はよく理解せよ——16 ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。17 屋上にいる人は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはいけません。18 畑にいる人は上着を取りに戻ってはいけません。19 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。20 あなたがたの逃げるのが冬や安息日にならないように祈りなさい。21 そのときには、世の始まりから今に至るまでなかったような、また今後も決してないような、大きな苦難があるからです。22 もしその日数が少なくされないなら、一人も救われないうでしょう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は少なくされます。

イエス様は、世界で起こることをお語りになられた後に、再び神殿で起こることについて語り始められます。聖なる所に、荒らす忌まわしい者が立つ、ということです。これは預言者ダニエルによって語られた、とあります。ここで少し不思議に思わないといけません。神殿は、紀元後70年に破壊されました。もちろん、その前にここにイエス様が語られていたようなことは起こっていません。しかも使徒ヨハネは黙示録で再び、ここの神殿について11章でも、13章でも話しています。黙示録は紀元後90年代に書かれていますから、神殿が70年に破壊された後に書いているのです。つまり、これは将来に起こることなのです。

¹ <https://jeanet.org/release/2018/10/1580>

² <https://www.whitehouse.gov/briefings-statements/remarks-vice-president-pence-2nd-annual-religious-freedom-ministerial/>

³ <https://flashtrafficblog.wordpress.com/2014/04/18/millions-of-former-muslims-will-celebrate-easter-this-year-meet-one-hormoz-shariat-the-billy-graham-of-iran/>

したがって、ここで主が語られていることが成就するためには、イスラエルの人たちが世界に散らされているところから戻り、そこに定住し、そして神殿を再建していなければならないのです。そこでイエス様が世の終わりについて見ておられる三つ目の視点は、「イスラエルの回復」です。これはすでに、初めにお話ししました。今は世界中の異邦人が福音宣教によって救われていきますが、終わりの日にはユダヤ人自身が集められ、福音を信じるということです。

ここで、冒頭で言及したエゼキエルの預言が関わります。バビロンによってソロモンの建てた神殿が破壊された後に、主がエゼキエルに語り始められました。それは、イスラエルが回復するというものです。36章では土地が荒地であったのが木々が生えて、町々が建てられ、回復する預言になっています。これは、18世紀終わりから世界に散らばっていたユダヤ人が一気に、当時、パレスチナ地方と呼ばれていた所に押し寄せてきました。荒地と湿地だけだったところを開墾して、町々を立てて行きました。今は、沙漠に緑になっている畑が広がっています。農業先端技術を使っているおかげです。そして農産物の自給率は95%、外国にも輸出しています。次に37章では、涸れた骨が主からの風によって組み合わさって人間となり、肉が付けられます。そして風が吹いて、生きた人間となります。それが、大勢の軍隊となります。そしてこれが、イスラエルの国であることをエゼキエルは預言しました。1947年5月14日に、イスラエルが建国しました。そして38章には、安全に暮らしているイスラエルの人々のところに、ロシア、イラン、トルコ、そしてリビアやスーダンなどの国々が一気に攻めて来ることが書かれています。それがこれから起こることです。

ですから、イスラエルが今、約束の地に住んでいて、エルサレムにも住んでいるということは、終わりの日の大きな徴の一つとなっています。イエス様はルカ21章24節では、「人々は剣の刃に倒れ、捕虜となって、あらゆる国の人々のところに連れて行かれ、異邦人の時が満ちるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。」とされています。イスラエルにユダヤ人は住んでいますが、肝心の神殿の丘には、神殿ではなく、イスラム教の岩のドームが立っています。ですから、異邦人によってまだ踏み荒らされている状態であり、異邦人の時がまだ満ちていないことが分かります。1967年の六日戦争で、神殿の丘をイスラエル軍が攻め取りましたが、その時の防衛大臣モシエ・ダヤンが、すぐにイスラム当局にその管轄を任せましたのです。

ですから、これから神殿をどうやって再建されるのか？ということに注目が行くのです。ユダヤ人にとって、神殿が回復することは念願の夢ですから、ユダヤ教の中で、神殿の丘に神殿を再建しようとする人々たちがいるのです。けれども、今、ユダヤ教徒がそこに入ろうとするものなら、アラブ人が暴動を起こします。神殿を再建するものなら、世界のイスラム教徒が戦争を勃発させることでしょう。けれども、そこを上手に取りまとめる人物が出て来ます。それが、ここに出て来る「荒らす忌まわしい者」です。彼こそが反キリストとも呼ばれますが、次のセッションで詳しく話します。

そしてイスラエルの民は、ユダヤに住んでいる人々は、まるで津波でも襲って来るかのように、

その場からすぐに離れて逃げなければいけないとイエス様は警告しています。荒らす忌まわしい者は、一気にユダヤ人に対して迫害を始めるからです。「山」に逃げなさいとありますが、黙示録 12 章では、イスラエルは荒野に逃げるとあります。荒野でかつ山というのが、イザヤ(63:1-6)やミカ(2:12-13)などによって預言されていますが、ボツラ Bozrah と呼ばれる今のヨルダンのペトラではないかと考えられます。その時に、これまでにない大患難が来るのです。

4B 再臨前の惑わし 23-28

23 そのとき、だれかが『見よ、ここにキリストがいる』とか『そこにいる』とか言っても、信じてはいけません。24 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちをさえ惑わそうと、大きなしるしや不思議を行います。25 いいですか。わたしはあなたがたに前もって話しました。26 ですから、たとえだれかが『見よ、キリストは荒野にいる』と言っても、出て行ってはいけません。『見よ、奥の部屋にいる』と言っても、信じてはいけません。27 人の子の到来は、稲妻が東から出て西にひらめくのと同じようにして実現するのです。28 死体のあるところには、禿鷹が集まります。

逃がっている、残されたユダヤ人たちの間に、偽メシアや偽預言者たちが来て、不思議や徴を行って惑わそうとしますが、まことのメシアは、地球上の者たち、全世界の者たちがどこからでも見て分かる形で、すべての者が見ることができる形で来られます。

28 節の言葉は、これだけを弟子たちが聞いてもよく分かることです。軍隊が殺されて、猛禽によって食われている姿です。預言者たちは、メシアが来られて敵対する軍隊をことごとく殺され、そこは血の海となることを預言していました。そして、猛禽がやって来てそれをついばみます。ハルマゲドンの戦いの最終段階でこのことが起こります。最後に反キリストも預言者も殺されて、地獄に投げ込まれることが、黙示 19 章に書いてあります。そこでは「神の大宴会」と呼ばれています。

5B 天変地異 29-31

29 そうした苦難の日々の後、ただちに太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、星は天から落ち、天のもろもろの力は揺り動かされます。30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

イエス様が語られる第四の視点は、「天変地異」です。この地球に大異変が起こったのは、聖書ではノアの時代であることを知っていますね。今の天地がいつまでも同じように続くのではありません。その異変が、僅かながらも今でも兆しとしては見ることができます。このことも、数々の預言者が語っていました。

しかし、そのような時に主が戻ってこられます。「天の雲」というのは、孫悟空のような乗り物のような雲ではなく、聖書では雲は神の栄光を表しています。神殿の雲が満ちましたね。偉大な力と栄光と共に来ますが、それはさながらシナイ山に主がイスラエルの前で天から降りてきたことが、全世界レベルで起こるかのようです。そしてその時に、主が天に散らされている残された民、選ばれた民をご自分のところに集めるのです。イスラエル人は今でも、世界から約束の地に帰還していますが、まだまだ世界には散らばっています。その帰還を主が再臨される時に完全に成し遂げるようにしてください。

これを、これから神殿がなくなり、世界に散らされるユダヤ人に語られているのですから、大きな慰めです。選ばれた民というのは、神に愛され、憐れみを受けているということです。神の選びによって、必ずやこのように主は救ってくださるのだということです。

3A 御言葉の確かさ 32-35

32 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。33 同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。34 まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。35 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。

イエス様は、そこに住むイスラエル人であればだれもが知っていることを語られました。いちじくの木は7月頃になると実を豊かに結ばせます。そうすると、ああ夏が近いよなとすぐに分かります。同じように、これまでイエス様が語られてきたことを見れば、主がいまにも来られることを知る必要があるということです。

そして、大事な言葉が二つあります。一つは、「この時代が過ぎ去ることは決してありません。」ということ。ここでの「この時代」というのが、「メシアが来られた時のユダヤ人の世代」という意味があったことを思い出してください。つまり、ユダヤ民族は、これらのことが全て起こるまで過ぎ去ることはないと言われているのです。言い換えれば、今も、主が戻って来られる時代に私たちは生きているのだということです。紀元33年頃に語られたイエス様の時代は、今に至るまで続いているということです。

そしてもう一つが、「天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。」ということです。どれだけ御言葉が確かなものであるかを私たちは知りますね。神は真実な方です、その言葉は決して私たちを裏切ることはありません、その通りになります。ペテロは、イエス様の変貌して栄光の姿に変えられたのを目撃しましたが、「Ⅱペテ 1:19 私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。」と言いました。